

ゆきうさぎ

温かく美味しい「おむすび」を

福島市小・中学校長会協議会

会長 熊谷 幸司 (大鳥中)

われまゝ。

福島市小中学校PTA連合会
並びに各単位PTA、そして、
会員の保護者の皆様には、学校
内外において、子どもたちの豊
かな成長と健全育成にご尽力を
いただいていることに心より感
謝申し上げます。

教育活動の展開は、どの学校においても保護者・地域の皆様のご支援とご協力がないと成り立ちません。PTA活動は、「三角形のおむすび」のようだと

家庭・学校・地域の三つの頂点を構成する三者が、ほかほかの温かい関係で結びつき、おむすびの具として中心にある子どもたちを育てていきます。握りが弱く柔らかすぎるとおむすびでは、おむすびの形は崩れ、美味しさとなる子どもの魅力は引き出すことはできません。もちろん、強く握りすぎても美味しいおむすびはできません。絶妙な握り具合となるバランスが必要ですよ。

教師と保護者だけのつながりではなく、その土台となる地域

もたちの健やかな成長を促すことが出来ます。

これから温かいおむすびを握り続け、福島市の未来を担う人材が成長していくことを願っています。福島市学校教育への

変わらぬ
ご理解と
ご支援を
よろしく
お願いし
ます。



PTA活動は地域づくり

福島市小中学校PTA連合会

会長 安藤 正 希 (西根中)



日頃より福島市小中学校PTA連合会の活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

新型コロナ五類移行後の変化のPTA活動に、試行錯誤の中にも多くの学びがあるのではないだろうか。

昨年十月に開催されたPTA研究大会東北大会の分科会「地域連携とPTA」へ参加しました。「地域づくりの担い手育成としてのPTA活動」という題

目の中で、講師の言葉に、「社会が求めているのが、人のつながり、協同、地域共生社会

である。そのことを学ぶ最も良い方法は、家庭と地域、保護者も良
い方法、同志が仲良くする姿を見て、子
どもは安心して学校生活を送るこ
とができる。PTAは存在自
体がそのことを子どもに教えて
いる。

何もかも無くすのではなく、
先人たちが築いてきたことに

は、必ず良いこともたくさんある。規模や状況に合わせて変化させて継続していくことが大切」とありました。

うな気がしてなりません。PT
A活動まで無くなってしまっ
たら…。

私も、地域の先輩方にかわいがっていただき成長し、今があたります。地域に感謝をしながります。私たちPTAが、地域と学校をつなぎ、子どもたちの成長の場となる地域づくりをすることが必要だと強く感じました。



中学校・特別支援学校の部

最優秀校 平野中学校
優秀校 福島第一中学校
優秀校 北信中学校

特別賞 飯野中学校

※飯野中学校は「日本PTA第44回全国小・中学校PTA広報紙コンクール レイアウト賞」受賞のため、特別賞とします。

受賞コメント 平野中学校PTA 広報委員長 林 具基
この度は、最優秀賞を頂戴し、光栄に思います。受賞目的のために
は、なく、PTAの主役である子ども達のために情報を発信することを
一番に考え広報誌作戦活動をして参りました。この考えが評価され
たのだと解釈し、素直に喜んでいます。また、本活動にご協力い
ただいた先生方、関係各位にこの場を借りてお礼を申し上げます。

[illegible]

令和5年
福島市連P広報紙
小学校
の部
瀬上
中学校・特別
支援学校の部
平野
最優秀校は

小学校の部

最優秀校 瀬上小学校 優秀校 鎌田小学校
優秀校 福島第二小学校 優秀校 佐倉小学校
優秀校 森合小学校

受賞コメント 瀬上小学校PTA 広報委員長 高橋 健太

この度は、大変輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。広報委員長を務めるようになり、多くの先輩方にご指導をいただいたおかげだと存じます。この賞は、PTA Aの皆様は勿論、生徒達の協力があり、一五〇周年式典、学校行事が無事に行われたからこそこの賞だと思っております。今後ともPTA A広報委員会へのご協力、よろしくお願いいたします。



創立百五十周年 おめでとうございます！

福島市立渡利小学校 福島市立松川小学校
 福島市立杉妻小学校 福島市立大森小学校
 福島市立鎌田小学校 福島市立野田小学校
 福島市立笹谷小学校 福島市立庭坂小学校
 福島市立飯坂小学校 福島市立水保小学校

家庭教育推進委員会

委員長 阿部 鉄也
 (蓬萊東小)

今年度の活動を振り返って

十二月九日、十二月には珍しく良く晴れた暖かな日に、全体研修会を四年振りに福島青少年会館で開催しました。講師の先生には、一般社団法人グレイスロード 坂本拳先生をお招きし、「子どものネット依存を防ぐには」の演題にて講演いただきました。子ども達の夏休みが明けた頃より全体研修会に向け準備を始め、十月、十一月に計二回の幹事会を開催しました。皆さん多忙の中での開催であつたため、幹事全員が集まることはできませんでした。研修会当日においては、幹

の参加者も、役割分担や研修会の流れを記載した資料を事前に配布していたことや、リハサルの時間を十分に確保できたこともあり、全員問題なく研修会を進められました。講演の内容は、坂本先生が実際にゲーム依存症となり、

現在に至るまでのお話や、子ども達のゲーム・ネット依存を防ぐための、子どもとの接し方などお話しいただきました。大変参考になるお話で、研修に参加された皆さん熱心にお話を聞いておりました。

研修会を終え、幹事会での反省・感想では、研修会を通して幹事同士交流をもてたこと、また各校のPTA活動においての意見交換できたことが有意義なものであったとの意見がありました。このほかの意見を踏まえ次年度の委員長へ引継ぎを行い今年度の活動を終了したいと思います。

最後になりますが、全体研修会開催にあたりまして、ご講演いただきました坂本先生、並びに講師の先生をお招きいただいたのに協力いただきました北教育事務所様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

教養委員会

委員長 大内 沙織
 (岡山小)

教養を深める機会 継続開催できる形を模索

はじめに、教養講座に参加いただいた会員の皆様、開催にあたりご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。以前は、研究大会として開催でしたが、コロナ禍は規模縮小にて開催して参りました。今年度は五類移行に伴い、会場にて会員が一堂に会して開催できる事になりました。また、教養講座とする事で準備の負担を軽減し、教養を深める場を提供する事とし

ました。講師へ依頼するにあたり、前年度県PTA連合会家庭教育セミナーでお話いただいた渡會先生の御講話が好評との推薦をいただき、先生へ打診したところ御快諾いただき、お呼びすることができました。そして、昨年十月十日に、とうほう・みんなの文化センター(小ホール)において、福島市PTA教養講座を開催



いたししました。東京医療保健大学から渡會陸子先生をお迎えし、演題「思春期の子どもの性教育と果たすべき親の役割」子ども達の人生を豊かにするための

広報委員会

委員長 奈良 健
 (荒井小)

「会報ゆきうさぎ」 新時代へ向かう

今回、市連P会報ゆきうさぎ第八十三号を作成するにあたり、コロナ前後四年分の広報誌のバックナンバーを読み返すところから始まりました。昨年よりコロナウイルスの扱いが第五類に移行したことに伴い、生活が以前に戻りつつありながらも、一度変化した生活は完全には元通りとはならず歯がゆい思いをされている方も多いと思います。この三年間自粛や中止で思うようにならず、それでもなお各専門委員の皆様が試行錯誤し今後どのように活動を進められるか苦心しながらも徐々に平時に戻っていく様子が見えてきました。広報委員会としても誌面の構想を練る際、取り上げたい記事が多く、どこに重きを置けるようになるといいかと悩んでいました。この数年、百五十周年を迎える学校が多数あり、またさみしくもありますが統合される学校もいくつかありました。対面での研修会やスポーツイベントの復活など明るい話題もあり、委員会を開くたびに委員の皆様が活発に意見を交換し、それでも解決しないときは広報誌のバックナンバーという先人の知恵を拝借し少しずつ完成が近づいてきました。コロナ禍において様々な組織が新しい時代に向けて態様を変化させていくことが求められていきます。「今までのことがあったから」が通用しなくなってきたと思います。伝統の保存と新しい時代の構築を両立できるよう、また今後の活動

の基準となるPTAの活動を皆さんに発信できたらと考えています。我々PTAの活動は皆さんの協力者の力なしに成り立ちません。問題点も山積しています。しかしながら現状は、学校に携わる皆さんがこの問題にふれる機会が少なく、保護者と学校との関わりが希薄になってきています。それを知っていただければ、積極的に関わっていただけるよう変化させていくことは容易ではありませんが、広報委員もその一助になればと思っています。

家庭での性教育について、御講話いただきました。渡會先生のお話しされる「性教育」は、自己肯定感を育む事、子ども自身が大切な存在だと伝える事が主軸となっていました。自分を大切にする事で、お互いを大切に

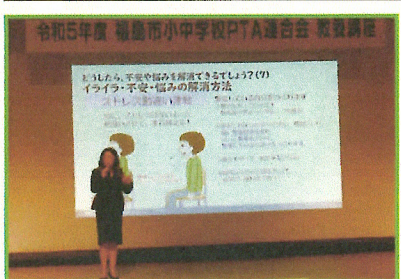
財政委員会

委員長 齋藤 智之
 (飯野小)

財政委員会活動を終えて

財政委員長を務めさせていただきました飯野小学校の齋藤智之と申します。今年度も福島市小中学校PTA様には

今年令和六年度予算に関しては、福島市教育委員会へ近年の教育関連の実態に即した項目を重点項目としてピックアップし、陳情を行って参りました。内訳といたしましては、①いじめ対策・不登校・特別支援等を踏まえた子どもの学びを保障する教育の充実。②タブレット活用・情報機器の安全利用・特色あるデジタル教育の推進等のICT活用の教育充実。③教職員の働き方改善及び子どもと向き合える時間の確保。その他、前年までの課題も踏襲した四項目を追加し、学



校・家庭・地域が連携を深め、福島市の明日を担う子どもたちが多様な価値観を尊重する心を育み、健やかに成長できることを望み陳情いたしましたことをご報告いたします。



健全育成委員会

委員長 佐藤 孝幸
(平野中)

久々の開催にどう立ち向かうか

コロナも五類に移行し、コロナ前の活動に戻ることもなった今年、PTA連合会の活動も通常運転に戻り始めていました。

そんな中、健全育成委員会の活動も再開することを目標に検討を進めてほしいと連絡がありました。前任の方にも引継ぎの際にお話を伺いましたが、このコロナ禍で活動が停滞していた中では、活動そのものが行われず、引継ぎされた内容も委員会の開催の報告のみ。途方に暮れたことを今でも思い出します。

第一回目の健全育成委員会ではまず委員になっている皆さんに今年からは活動が再開されていくこと、できるなら研修会の開催までお願いされたことを共有しました。そのうえで前向きな提案をたくさんいただきました。

今年、PTA連合会の活動も通常運転に戻り始めていました。そんな中、健全育成委員会の活動も再開することを目標に検討を進めてほしいと連絡がありました。前任の方にも引継ぎの際にお話を伺いましたが、このコロナ禍で活動が停滞していた中では、活動そのものが行われず、引継ぎされた内容も委員会の開催の報告のみ。途方に暮れたことを今でも思い出します。

す。

福島市PTA連合会長始め本部役員の方々、財政委員の



皆様には、委員会を通じ福島市内や各校の課題・現状把握のご意見を賜り、日々変化する学校教育現場の課題に対して鋭意取り組む姿勢を学ばせていただきました。

今後も益々少子化が進み多様化する学校教育の課題解決のために、教育予算が適正に配分され、充実した教育環境の整備に寄与し、財政委員会の活動が充実したものとなるようご協力お願い申し上げます。今年度の御礼とさせていただきます。



厚生委員会

委員長 齋藤 弘樹
(福島一中)

会員同士の協力でPTAの親睦を図る

本委員会が運営を担当してきた市連Pソフトボール大会は、コロナ禍でここ数年中止となっていました。

その感染症分類が五類に移行した今年度、大会の再開を模索しつつ前委員長校から引き継ぎましたが、久しぶりの開催となるため担当校として不安と負担が大きく、また、昨今のPTAに対する保護者の意識変化や本校も含め単P

によつては活動の見直しを進めている現状にあつては、これまで同様に本委員会が運営することは難しいと判断し、協議の結果、従来の大会は中止とし、代わりに、安藤会長

が、PTAに対する保護者の意識変化や本校も含め単Pによつては活動の見直しを進めている現状にあつては、これまで同様に本委員会が運営することは難しいと判断し、協議の結果、従来の大会は中止とし、代わりに、安藤会長

はじめ本部役員並びに参加校の代表の方々のご尽力をいただき、菅藤副会長のマネジメントのもと「PTA親善ソフトボール大会」を開催することとしました。

六月二十五日(日)に荒川グラウンドで行われた大会には、単独校チームと各地区の中学校区内で結成した合同チーム合わせて三十校が参加し、好天にも恵まれる中、和気あいあいとした雰囲気の中で選手がプレーし、応援の保護者や子どもたちも笑顔で選手のプレーを観覧する姿が見受けられました。

また、福島市家庭バレー

進路対策委員会

委員長 加藤 孝子
(渡利中)

子どもたちの進路選択・実現のために

進路対策委員会は、受験生たちの高校入試に係る進路選択が、適正かつ円滑に行われるよう活動しています。

今年度は、まず六月に地区進路対策委員会総会を紙面で開催し、役員組織や予算、事業計画・内容、負担金の納入などについて確認いたしました。続いて九月四日には常任委員会を開催し、各中学校から出された来年の県立高校入試に向けての意見や要望を検討し、十五日には代表者三名で県北地区の五つの私立高校を訪問し、その要望などをお伝えしてきました。

要望の概要は以下の通りです。

・休日や三学期始業式と重ならない出願日・入試日の調整

・WEB出願の人力マニュアルの提示や統一形式での出願

・調査書に記載する出欠期日

・休日や三学期始業式と重ならない出願日・入試日の調整

・調査書に記載する出欠期日

・休日や三学期始業式と重ならない出願日・入試日の調整

・調査書に記載する出欠期日



福島県PTA研究大会「本松大会」

私たちはどう生きるか？

福島市小中学校 PTA連合会 副会長 二階堂 義樹（森合小）

去る十一月十二日に第七十一回福島県PTA研究大会二本松大会が開催されました。記念講演では二本松出身の日本画家・大山忠作氏のご息女で女優の「色采子氏」に「演じることは生きる事」と題してご講演をいただきました。父、縁の地に美術館建設に至った過程を通じて、大山氏が如何に日本画家として夢を成し遂げたか。自身もどのようにに芸能の世界に羽ばたいたことができたかについて具体的なエピソードを交えて大山家

どもの言動を捉え開く家庭の在り方」と題してご講演をいただきました。小中学校の教員をしていた渡邊氏は、難病を発症しほぼ全盲となつてしまいましたが、その後努力し、鍼灸の道に進まれ、研究論文が、鍼灸界で権威ある「高木賞奨励賞」を受賞するなど、第一線で活躍されています。自身の考える大人の定義「我慢できる人、忍耐力のある人」をベースに医療面接から夫婦間や親子での声の掛け方など、身近なエピソードを通じての説明に腑に落ちる場面がいくつもありました。相手を認め、期待していること

を伝えることで自ら目標に向かって行動するように、親としては愛情を注ぎ続けることが大事だと、あらためて気付かされました。講話の途中にクイズを交え、最後には弾き語りで森山直太朗の「花」を披露するなど、終始飽きることなく、まるで生徒のように楽しく参加できました。これからの生き方を考える場となりました。



ふくしま支援学校のPTA活動について

ふくしま支援学校PTA会長 高橋 真希

ふくしま支援学校は、小学部児童数六十名、中学部生徒数二十一名、高等部生徒数四十四名（令和五年度）と通う子どもは少ないのですが、障がいをもつ特別な支援を必要とする子どもたちのため、一人一人に寄り添った丁寧な関わりを大切にしています。PTA活動も、保護者の人数が少ないなか全家庭がPTAに加入し、皆さんに協力していただきながら行い、子どもたちのために保護者と教職員が共通理解で歩んでいくよう努めています。本校のPTA活動には、特別支援学校ならではの活動が

あります。福島市特別支援学校五校協議会（福島大学附属特別支援学校、福島県立視覚支援学校、福島県立聴覚支援学校福島校、福島県立大笹支援学校、福島市立ふくしま支援学校の五校）での活動です。五校協議会では、毎年十一月に障がい福祉サービス事業所説明会（令和五年度は県北地方の障がい福祉サービス五十三事業所が参加）が開催され、福島市内の特別支援学校、特別支援学級、福島県立支援学校の保護者を対象に高等部卒業後の進路について考えるための情報が得られます。



我が子のために悩み、がんばる保護者の方々と共に、児童生徒に寄り添い一人一人の成長のために尽力してくださる先生方と協力しながらよりよいPTA活動を目指したいと思っています。

活動を通して今年度からコロナ五類に移行したことにより以前のように活気が戻ってきましたが、いつ発症してもおかしくない不安の中、各箇所での講演会参加、ソフトボール、バレーボールによる親善試合、他県に出向いての大会参加と年間を通して勉強や交流を目的として活動してきました。何が原動力になっているのか自分自身に自問自答をしたときに、未来のある子どもたちのために継承していかななくてはいいないと思い始め、たとえ仕事で忙しく慌ただしくても会議に出席し、交流を図り、広報員会だけでなく学校のPTA活動を遂行していくことが使命だと感じています。

この世の中心手不足や児童数の減少、様々な理由により活動が制限され、思い通りにいかないこともありますが、ですが周りを見渡せば助けてくれる仲間、助言をくれる先輩方が必ずいます。そんなことを日々感じ、任期を全うしたい所存です。広報委員会も活動内容や各学校の出来事を皆様に届けるために、相談を重ね記事を作成しているところです。広報担当事務局学校の諸先生方、（広報副委員長 佐久間利恵）

令和5年12月2日（土）・3日（日）福島トヨタクラウンアリーナ 第60回福島市家庭バレーボール大会

大会結果

区分	小学校PTAの部	中学校PTAの部
優勝	矢野目小学校PTA	北信中学校PTA
準優勝	大森小学校PTA	野田中学校PTA
3位	平野小学校PTA	清水中学校PTA
3位	御山小学校PTA	信夫中学校PTA
敢闘賞	月輪小学校PTA	第三中学校PTA



優勝 矢野目小学校



優勝 北信中学校

令和5年度 市連P広報委員名簿

No.	学校名	会員名
1	荒井小学校	奈良 健
2	湯野小学校	佐久間利恵
3	西根中学校	大久保一彦
4		安藤 正希
5	渡利小学校	遠藤 嘉邦
6	松川小学校	齋藤 龍一
7	下川崎小学校	齋藤 博俊
8	渡利中学校	加藤 孝子
9	松陵中学校	平林 桂子
10	鎌田小学校	御代田功二
11	矢野目小学校	阿部 隆盛
12	北信中学校	鈴木 寛世
13	庭坂小学校	尾形真知子
14	水保小学校	長澤 梢衣